

⑩食品関係 J社

1 主なコンプライアンスの取組一覧

- (1) 表示の審査をシステムを利用してワークフロー形式で実施
- (2) 景品金額のチェックができる Excel シートを作成
- (3) 法令情報などをシステム上で全社的に共有
- (4) タイアップして作成する広告表示を審査して相手方と協議
- (5) お客様からのご意見を分析・考察**
- (6) 景品表示法、公正取引規約などについての研修を実施
- (7) 朝礼を利用するなどしてコンプライアンス意識を浸透**

2 取組ピックアップ

(5) お客様からのご意見を分析・考察

お客様からのご意見については、内容、対応、対応に対するご意見、お客様へのフィードバック等、全ての情報と経過がデータベースに記録されている。データベースは全社員が閲覧できる。

また、統計をとって、どんなところに要因があるのか等を分析・考察し、対策・活用につなげている。取締役会にも報告し、意見をもらっている。

(7) 朝礼を利用するなどしてコンプライアンス意識を浸透

朝礼の時間を利用して、社内ルールを毎日1ページずつ読み合わせている。これにより、ベースとなるコンプライアンスの考え方を社員全体に浸透させている。意識をしっかりとってもらい、勝手な行動を誰かがとることを防ぎ、正規の審査ルートにのせることを意図している。このほかにも、日常的な注意喚起や情報提供も意識づけの効果をもっている。

3 コンプライアンスの取組の効果等

かつては「法務」部門と言っても「ホーム（HOME）」と勘違いする従業員がいるほど、意識が不十分な時期もあった。しかし、取組を継続してきたことで、今では何か心配ごとや疑問があると法務部門に相談する習慣が定着してきた。事前に相談することで後々のトラブルを予防できるなど、相談がメリットになると従業員にも認識してもらえていると思う。また、相談を通じて法務部門が案件を把握して、法令違反が起こらないように関与することが法令遵守の担保につながっている。